

肢体不自由特別支援学級(2学年) 算数科 学習構想案

I 単元構想

単元名	6「100をこえる数」(啓林館 p74~87)	
単元の目標	(1) 1000までの数のよみ方やかき方を理解する。 (2) 10や100を単位として数をとらえたり、順序や大小、加減計算の仕方を考えたりすることを通して、十進法の理解や数の見方・考え方を深める。 (3) 生活や学習に活用しようとする態度を養う。	
	知識・技能	思考・判断・表現
単元の評価規準	① 1000までの数の表し方や仕組みを理解する。 ② 十進位取り記数法の仕組みをもとにして、1000までの数を表したりよんだりできる。 ③ 1000までの数の大小を比べることができる。	① 1000までの数について、100までの数と同じように、10や100などを単位としてそのいくつかとみて表現したり加減計算の仕方を考えたりすることができる。
単元終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)		
1000までの数のよみ方、表し方、10や100を単位とした相対的な見方、大小、順序、数系列などについて理解し、生活や学習に生かそうとする児童。		
単元を通した学習課題(単元の中心的な学習課題)		本単元で働かせる見方・考え方
100をこえる数の表し方や仕組みを調べて、日常生活で使えるようになる。		数字は、10にまとまると新しい単位を作る、数字をかく位置で数の大きさを表す。これらを意識して、数の範囲が広がっても数字で表すことができるよさを感じ取る。
指導計画と評価計画(11時間取扱い、本時1/11)		
過程	時間	学習活動 (「問い」を設定しても可)
		評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1 本時	○単元の課題をつかみ、星の数を10や100のまとまりを作って数える。
		【態度】〈観察〉 ○100をこえる星の数を工夫して数えようとしている。 ★【知・技】〈観察・発言〉 ○100をこえる数の構成と読み方を理解している。
	2	○三百六十五について、3位数の表し方を知る。 ○3位数の仕組みを考える。
		★【知・技】〈ワークシート〉 ○3位数を数字で表したり、3位数の構成を説明したりすることができる。
	3	○二百八について、空位のある3位数の表し方を知る。 ○空位のある3位数の仕組みを考える
		★【思・判・表】〈ワークシート・発言〉 ○空位のある場面の3位数の表し方とその構成を考えたり説明したりしている。
	4	○10を24個集まるといくつになるか、360が10を何個集めた数かを考え、10を単位とした数の構成や分解についてまとめる。
		★【知・技】〈ワークシート・発言〉 ○10を単位とした数の構成や分解ができる。
二	5	○星を100ずつ線で囲む。 ○100を10個集めた数1000を知る。 ○1000の構成や系列を考える。
		【知・技】〈観察〉 ○100のまとまりを数えることを通して、1000という数の大きさをとらえることができる。 ★【思・判・表】〈発言・ワークシート〉 ○1000という数を他の数を使って表すことができる。
	6	○1目盛りが10の数直線を見て、650;340;990はどこになるかを考える。 ○数の系列についての練習をする。
		★【思・判・表】〈発言・ワークシート〉 ○数直線を使って、数の系列や順序をいろいろにとらえている。 ★【知・技】〈ワークシート・観察〉 ○目盛りの大きさに着目し、数直線を読むことができる。

	7	○各組の得点をよみ、大きさ比べの仕方を考える。 ○不等号を使って数の大小を表す。	★【思・判・表】〈ワークシート・発言〉 ○3位数の大小の比較の仕方を考えたり説明したりしている。
	8	○れんしゅう	
三	9	○ $80 + 30$ や $130 - 90$ の計算の仕方を考える。	★【思・判・表】〈ワークシート・発言〉 ○10を単位とした計算の仕方を考えたり説明したりしている。
	10	○ $200 + 400$ や $800 - 600$ の計算の仕方を考える。	★【思・判・表】〈ワークシート・発言〉 ○10を単位とした計算の仕方を考えたり説明したりしている。 ★【知・技】〈ワークシート・発言〉 ○100を単位として簡単なたし算やひきざんの計算ができる。
	11	○学習内容の定着を確認するとともに、本単元の学びを振り返る。	★【知・技】〈「たしかめよう」の問題〉 ○基本的な学習内容を身につけている。

※ICTの効果的な活用について

- たくさんものを見て数えたり、大きい数を見たりするだけで苦手意識をもつであろう児童に、意欲を持って取り組ませるためにタブレットパソコンを利用し、作業させる。(本時)
- 10のまとまりと100のまとまりの色分けをさせ記入させることで、視覚的にわかりやすくする。(本時)
- 学習が進むごとに、前時の内容のフラッシュカードを作成し、取り組ませ、学習内容を習得させる。(単元を通して)

※特別支援教育の視点から

- 集中力の持続が困難な児童のために、なるべく短時間で活動を区切り、次の作業をさせる。
- 視覚的にわかりやすい板書にし、ワークシートにも同じように記入させる。

2 本時の学習

(1) 目標

10や100のまとまりに着目して、100をこえる数の数え方やよみ方がわかる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
あ	10分	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <p>①学習の流れを確認する。</p> <p>②本時の問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【問題】星は何こありますか。</div> <p>◇100こより多い。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【めあて】大きい数をくふうして、かぞえよう。</div> <p>◇星がいっぱいだね。</p> <p>◇どうやって数えようかな。</p>	<p>○本時の学習の流れをホワイトボードで確認する。(意欲の維持のためにも、学習後のお楽しみも明記しておく)</p> <p>○星の絵を見て、予想させる。</p> <p>○10のまとまりをつかって数えることに気づかせる。気づかない場合は、1年生で学習した内容の問題を見せ、10のまとまりをつかって数えることを思い出させる。</p>
り	30分	<p>2 問題解決にむけて、取り組む。</p> <p>①自分で考えて、10のまとまりを黄色で囲む。</p> <p>◇多くて、大変そうだよ。</p> <p>◇10が36こできた。</p> <p>②もっと数えやすくするために、どうしたらよいか考え、100のまとまりを赤色で囲む。</p> <p>◇10が10こで100になるね。</p> <p>◇100はいくつあるのかな。</p> <p>③100のまとまり、10のまとまり、ばらのじゅんに並べ、読むことができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【期待される学びの姿】 大きい数でも10にまとめると数えやすいというよさを実感している。</div>	<p>○学習活動ソフトウェアの「発表ノート」の挿絵を見て、数え方を確認する。</p> <p>○10のまとまりがいくつできたかを二人で確認する。</p> <p>○100のまとまりをつくれば数えやすいことに教師の発問から気づかせる。</p> <p>○色を変えて囲ませることで、わかりやすくさせる。</p> <p>○10が10こで100になることを星の図と計算棒を対応させて読み方を確認し、読ませる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【具体の評価規準】観点 ○10のまとまり、100のまとまりをつくり、大きさの順に、読むことができる。 (方法:観察・発言)</div> <p>【到達していない児童への手立て】 ○星の図と計算棒を自分で並べさせ、数え方を確認する。</p>
こ	5分	<p>3 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【まとめ】 大きい数を数えるときは、10のまとまりをつくれば、はやくできる。</div> <p>◇100をこえる数を数えることができた。</p>	<p>○これから「100をこえる数の表し方やしくみ」を学んでいくことを知らせる。</p>